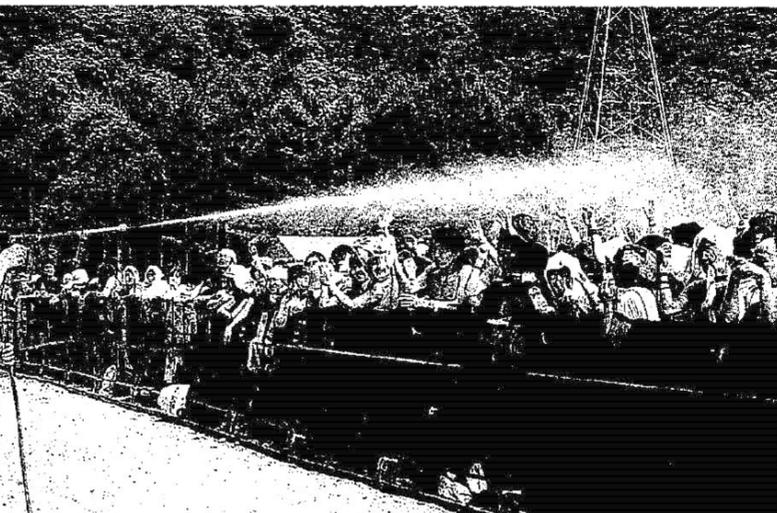


興奮ビート 躍る万人



絶叫

3日間で延べ7万2000人が訪れたフジロックフェスティバル。照りつける太陽の下、アーティストとともに観客が揺れる31日

清涼

炎天下の野外イベントのため暑さで倒れる客も出た。そこで公演の合間には客席への放水サービスが行われた31日

「田舎へ行こう」。長野清志郎がフェスティバルのテーマソングを奏しきり、歌う。歌詞にうたわれているように、緑の谷を渡る涼しい風が、会場の熱気を心地よく冷ましていく。

国内最大級の野外ロックイベント「フジロックフェスティバル99」が七月三十日から三日間、南魚沼市の苗場スキー場で行われた。

三日間の延べ入場者は七万三千人。過去二回を上回る観客が全国各地から詰めかけた。迎え撃つアーティストは国内外の約百十組。フィッシュ、奥田民生、レイジ・アゲインスト・ザ・マシン、プラク、U.A.、Z.Zトップ。現代の音楽シーンを代表するアーティストがグリーンステージ（三万人収容）、ホワイトステージ（二万人）など五会場で二日中、気合の入ったライブをこなした。

真夏のイベントだけが人の多発も心配されたが、三日間で打撲や脱水症状で救護を必要とした人はわずか二十人。スタッフの一人は「参加者が野外イベントになれてきた以上、自然の自然が人を平和な気持ちにさせるのだ」と話した。

主催のスマッシュ（東京都港区）の日高正博代表は開演前、「ステージの後ろには森が広がり、きれいな小川も流れている。このすばらしい自然の中でのんびりと楽しんでほしい」と話していた。

ステージ前でリズムに合わせて跳びはねる人、シートを広げ恋人の日光浴を楽しむ人、疲れた体を木陰で休める人。気の早いトンボが、ステージのマイクに、観客の想いを舞い降る。ロックの普通のテーマ「愛と平和」の世界が会場いっぱい広がっていた。

写真＝長岡支社・佐藤 隆
文＝岡・藤田佳秀



心酔

国の人気バンド、ブラー。オープニングの曲「デンター」の演奏に、観客は聞きほれた31日

NHKのグループステージの最後に出演した英

苗場で「フジロックフェスティバル99」



熱唱

レイジ・アゲインスト・ザ・マシンのボーカル、ザック・デ・ラ・ロチャの力強い叫び。観客も一緒に歌ってこたえた30日

一体

日が落ち、夜のとばりが下りた会場。ステージからのライトに照らされ客席が浮かび上がる31日